

公開年月日： 令和3年 5月 31日

提案団体名： 三菱HCキャピタル株式会社

○提案内容

<b>(1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等</b> ※スマートシティの実現に資する技術については、別紙の(1)～(7)の技術分野への対応を記載ください	
技術の概要・実績等	技術の分野
<p>1. 当社は従来型のリースやファイナンス提供のみならず、事業者または事業者同等の立ち位置で多くのビジネスに参画しており、これまでPPP/PFI、再生可能エネルギー発電事業、モビリティ、食・農事業など幅広い領域でビジネスを展開している。</p> <p>2. そのため事業管理のためのSPC運営や各種ストラクチャリング等のノウハウ、国内外ネットワークを活かした広いカバレッジ、多様な機能を持つグループ会社の活用等、当社特徴であるメーカー、銀行系を背景とした強みを持ち合わせている。</p> <p>3. 現在ではサービス事業や各種インフラビジネスを通じ、環境エネルギー・モビリティ・ライフ等の分野に注力し、IoTやAIなどのデジタル活用も視野に入れながら、案件創出強化に努めており、再生可能エネルギー発電事業の更なる規模拡大、MaaSビジネス、EVプラットフォームビジネス、サイネージソリューション、BtoBにおけるシェアリング事業、インテリジェント・ロジスティクスなどに参画を検討または着手を開始している。</p>	(7)
<b>(2) (1)の技術を用いて解決する都市・地域の課題のイメージ</b> ※課題については、別紙の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください	
解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>1. さまざまなメガトレンドのなかでも、特に人口増加に伴うエネルギー不足あるいは交通混雑、人口の都市集中化、また、人生100年時代のヘルスケアの負担増加、資源の有効活用をめざした共有経済の確立を注視。</p> <p>2. これらに対してはデジタルイゼーションによるスマート化や、シェアリングなどによる資源最適化を通じて、問題の解決に取り組んでいきたい。そのためにはファイナンス手法の有効活用とIoTテクノロジーの利活用を切り口として参りたい。</p> <p>3. SDGs、Society5.0を事業の発想の基点に、「社会価値を創造し提供する会社」、「ユーティリティプレイヤー」として、各ステークホルダーやパートナーをつなぎ、事業のネタとなるニーズからデータをまとめ、オープンイノベーションに貢献して参りたい。</p>	(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) (ク) (ケ) (コ) (サ) (シ)
<b>(3) その他</b>	
<p>令和2年3月、旧 日立キャピタル（株）としてスマートシティ官民連携プラットフォームにオブザーバー登録。令和3年4月の経営統合により統合新会社の商号は三菱HCキャピタル（株）となりました。</p> <p>（以下は当社ホームページ「<a href="https://www.mitsubishi-hc-capital.com">https://www.mitsubishi-hc-capital.com</a>」の「ごあいさつ」より）</p> <p>『2021年4月、三菱HCキャピタルは、三菱UFJリースと日立キャピタルの統合により、誕生いたしました。</p> <p>私たちは、リース会社の枠を超えて世界各地で先進的なアセットビジネスを展開、社会的課題の解決を通じて、新たな価値を創出してまいります。</p> <p>銀行・商社系とメーカー系という異なるバックグラウンドを持った両社の経験や知見を生かし、“Voyager to the Frontier”の想いを胸に、開拓者精神で新たなビジネスを切り拓いてまいります。</p> <p>社会の変化やニーズを的確に捉え、地球環境に配慮し、独自性と進取性のある事業を展開することで、明るく希望に満ちた未来社会、人々の豊かな暮らしの実現に貢献してまいります。</p> <p>ぜひ新生「三菱HCキャピタル」にご期待ください。』</p>	

※(1)(2)について、複数ある場合は項目毎に対応の記載をお願いします。

※既に構想中、実施中のプロジェクトがある場合は、別途そのプロジェクト単独での提案も可能です。

○部局名・担当者・連絡先（電話及びメール）

部局名	担当者	連絡先（電話）	連絡先（メール）
ストラクチャードファイナンス部	秋山秀一、佐々木成美	03-3503-2260	akiyama_shuichi@mitsubishi-hc-capital.co.jp sasaki_narumi@mitsubishi-hc-capital.co.jp